

# 国立病院機構の診療情報データベース臨床研究

井上 紀彦<sup>†</sup>第76回国立病院総合医学会  
2022年10月8日 於 熊本

IRYO Vol.77 No. 5 (311-313) 2023

## 要旨

国立病院機構（NHO）本部ではNHOの所属病院で日々行われる診療情報を収集・蓄積した診療情報データベースを構築している。本部総合研究センター診療情報分析部ではこのデータベース情報を用いた臨床研究を実施してきた。NHO本部では2種類の診療情報データベースを並列運用している。1つは診療報酬請求情報であるレセプト・DPC（診断群分類別包括評価）のデータを集積しているMIA（Medical Information Analysis Databank；診療情報データベース）である。2つ目は、NHO病院から電子カルテ情報をリアルタイム収集しているNCDA（NHO Clinical Data Archives；国立病院機構診療情報基盤）である。レセプト・DPCのデータから成るMIAからは、患者基本情報の年齢・性別、診断名称と診断コード、診療行為、処方、入院時情報、退院転帰やコストなどのアウトカムといった情報が取得可能である。NCDAは、医療者が日々電子カルテ上で入力したり目にしてしている情報を収集していると考えるとわかりやすい。MIAと同様にNCDAからも患者情報や診療行為・処方の情報が取得できるほか、生化学検査や血算、培養検査などのオーダー情報と結果、バイタルなど、詳細な診療情報が取得可能である。これまで診療情報分析部が実施したデータベース臨床研究は内科・外科・救急・リハビリ・新型コロナウイルス感染症など多岐にわたり、その他にデータベース記録の妥当性を検証する「バリデーション」という分野の研究も行ってきた。本稿ではこれら概要を述べたいと思う。

キーワード データベース、国立病院機構診療情報基盤（NCDA）、診療情報データベース（MIA）、診断群分類別包括評価（DPC）、レセプト

## はじめに

本稿では、国立病院機構（NHO）の診療情報データベースおよびこれを用いた臨床研究の事例を紹介する。NHOは、日本全国に140の病院と約5万2千の病床を有している（図1）。一般病床における急性期医療や救急医療をはじめ、災害医療、新興感染

症発生時の対応、精神科専門病院、結核、筋ジストロフィーなどの難病、人口の少ない非都市部の保健システムなどカバー領域は広い。NHOは都市部・郊外を問わず、各地域で一次医療から高度医療まで提供する中核病院として機能している。また、民間病院では採算が取りにくい難病の治療もカバーし、各地域の住民の健康を守る<sup>とりで</sup>砦として機能している。

国立病院機構 本部 総合研究センター 診療情報分析部 <sup>†</sup>研究員  
著者連絡先：井上紀彦 国立病院機構 本部 総合研究センター 診療情報分析部  
〒152-8621 東京都目黒区東が丘2丁目5番21号  
e-mail : noricom.tmd@gmail.com  
(2023年3月3日受付 2023年8月4日受理)  
Clinical Research on Medical Information Database of National Hospital Organization  
Norihiro Inoue. Clinical Research Center, National Hospital Organization Headquarters  
(Received Mar. 3, 2023, Accepted Oct. 4, 2023)  
Key words : database, NCDA, MIA, DPC, claims data